

準備が進む20周年記念展

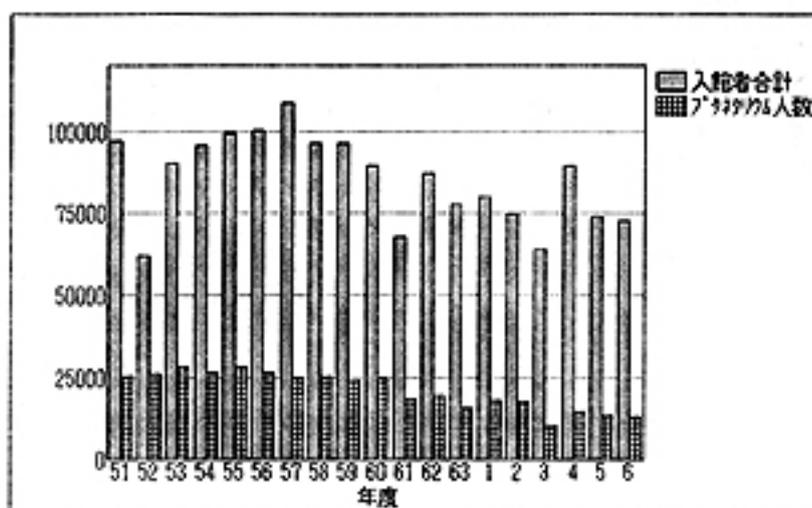
博物館は、この5月で満20周年を迎えます。それを記念して、5月1日から「開館20周年記念展」が開かれます。

現在、その準備のために、20年間の館活動をいろいろな視点から整理する作業を行っています。たとえば、20年間の入館者の統計をまとめると右のようなグラフができました。

どんな行事を行ったかは、一覧表を作ってみました。20年間続けてきた行事もあれば、最近新しく仲間入りした企画もあります。

これらの行事は、参加された方に楽しんで頂いただけではなく、多くの成果も生んできました。「相模川を歩く会」からは「相模川事典」が生まれ、「平塚の戦災と空襲を記録する会」は「平塚の空襲と戦災展」開催の原動力になりました。「みんなで調べよう」の結果は常設展示でも紹介されています。このように、行事が館の財産として生きていくくみを作ってきたことが、この博物館の最大の特徴だと思います。

5月1日からの特別展では、なつかしいポスターやパンフレット、寄贈された資料などを多数展示する予定です。お楽しみに。



行事名		51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	
館内行事	体験学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	古文書講話会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平塚の空襲と戦災を記録する会														○	○	○	○	○	○	○	
	裏打ちの会																					○
	自由研究相談会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	講演会・公演	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	映画会	○		○																		
	ナチュラリスト講座															○	○	○	○			
	デッサン教室		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
	水彩教室				○	○	○	○	○	○	○											
野外行事	石仏を調べる会				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	遺跡見学会・史跡見学会	○						○					○	○								○
	古代遺跡を探す会																		○	○	○	○
	相模川を歩く会													○	○	○	○	○	○	○	○	○
	サマーセミナー				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
	野外研修講座																					○
	自然観察会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
	自然観察入門講座		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区観察会		○	○	○	○	○															
	土曜観察会						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	みんなで調べよう			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	漂着物を拾う会																	○	○	○	○	○
	自然観察ゼミナール																					○
	地層観察会								○	○	○	○										
	相模川の生い立ちを探る会																		○	○	○	○
	地質調査会																					○
	星を見る会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
天体観察会								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

▲博物館の行事一覧表

開館20周年記念展

平塚市博物館はこの5月で満20周年を迎えました。開館した時にはヨチヨチ歩きだった博物館がようやく成人式を迎えたわけです。初めは余裕のあった収蔵室も、資料があふれるばかりになり、コンピューターには膨大な情報が入力されています。こうした蓄積ができたのも、行事や調査を通じて出会った多くの方々の協力のおかげだと思います。

今回の特別展では、20年間の歩みを紹介するとともに、資料的な価値の大きい、各分野のコレクションを展示します。自分の顔が写った写真がないか、寄贈した資料がないか、ぜひ見に来てください。

●記念シンポジウム

「すべてのまちに博物館を—
高まる地域博物館への期待」

日時：5月12日(日)

午後1時半～4時

場所：博物館講堂

(入場自由)

パネラー：

小川直之氏(國學院大學助
教授)

林 浩二氏(千葉県立中央
博物館学芸員)

渡辺保子氏(茅ヶ崎の博物
館を考える会)

「博物館があったためにこんな経験ができた・これからの博物館にこんな期待をしている・私の住んでいる町にも博物館がほしい・・・」博物館についてのご意見をお持ちの方、ぜひご来場ください。



●特別展図録

「博物館のできるまで」

A4版60ページ。「博物館ものがたり」「博物館のしごと」の2章で、博物館のすべてを紹介。博物館の舞台裏を知りたい人、博物館でどんな情報が手に入るかをつかみたい人、博物館学の勉強をしている人・・・こうした方に必読の本です。



▲開館時にあった展示「地下をのぞこう」(写真の中学生ももう30代なかば・・・)

◀開館ポスター(1976年5月)

開館20周年記念シンポジウム

「すべてのまちに博物館を - 高まる地域博物館への期待」

5月12日に、平塚市博物館の開館20周年を記念してシンポジウムが開催されました。会場には、博物館の行事によく参加されている方、ボランティアとして出入りしている方、他の博物館関係者、博物館学を学んでいる大学生など約50名の参加があり、熱心な討議が行われました。

パネラーの小川直之さん（國學院大学助教授）は、日本の博物館がますます多様化してきており、全国で6000の館の内、博物館法によらない館が半数を占める現状を紹介されました。そして、平塚市博物館の活動の特色は、教育普及型というよりは「地域研究方法論型」という点にあり、行事そのものが市民と一緒に調査研究していくしくみを作った点が評価できる、またその延長で地域博物館は大学と並び立つような学術研究の拠点にもなりうるとの見解を示されました。

林浩二さん（千葉県立中央博物館学芸員）は、現代の大きな傾向として情報の消費を楽しむという風潮が蔓延していることを指摘され、それに対して博物館は情報を生み出す場であり、それを生産したり発信したりする知的な楽しみを共有できる点に大きな教育的な意味があると話されました。また、博物館を拠点にして、地域の人がつながり合う交流の場が作られる意味にもふれられました。

渡辺保子さん（茅ヶ崎の博物館を考える会）は、茅ヶ崎市に地域博物館を作る運動の中で、「市民が活用する館」「学校教育と連携する館」「情報センターとしての館」「環境問題に取り組む館」などの理念が生まれ、茅ヶ崎のアイデンティティを理解し、よりよい地域を作るための素材を蓄積する場として博物館建設を求めていると話されました。

討議の中では、地域意識が希薄になる社会状況の中で、地域博物館という考え方が、これからも有効なのかという点が話題になり、パネラーからは「広域行政論が取りざたされているが、社会教育施設は自転車で動ける範囲にあって初めて市民との結びつきが生まれるのではないか」「ただ住んでいるだけでは自分の町にはならない。歩いたり調べたりして、自分の町にしていく手がかりを博物館は多く与えてくれる」「平塚市博物館のような活動スタイルの地域博物館が来世紀のあるべき姿を先取りしているのではないか」などの意見が出され、地域にこだわった博物館のあり方は大きな意味を持つことが再確認されました。

また、会場からも発言があり、平塚市博物館について、「もっと来館者を増やす努力をすべき」「活動の部屋を多くしてほしい」「学校との連携を強めてほしい」などの具体的な要望も出されました。

地域博物館としての20年を振り返り、新しい発展をめざすきっかけとして、大きな意味のあるシンポジウムでした。

